

行政視察報告書

委員会名	総務文教委員会 「特定事件 図書館行政について」
派遣委員	委員10名 斉藤雄二委員長、田川浩司副委員長、藤原みどり委員、河合悠祐委員、川崎久範委員、平山杏香委員、金井俊治委員、田中宣光委員、吉岡健委員、小川利八委員
日程／場所	令和5年10月12日(木) 埼玉県桶川市(桶川市立中央図書館)「図書館行政について」
目的	本市における図書館分館の設置を図るため、民間施設との複合化により運営を行っている桶川市立中央図書館を行政視察し、図書館分館の実現可能性について調査・研究を行った。
各委員からの報告 (内容、所感(意見・課題・本市への反映など))	<p>○斉藤委員長 面積25.35km²、人口約7万4,000人の桶川市には図書館は市内4か所あった。草加市は面積27.46km²、人口約25万人で、面積は草加市とほぼ同程度。人口は約3.39倍にもかかわらず中央図書館のみ1か所というのはやはり少な過ぎる。 視察を行った桶川市立中央図書館は、丸善雄松堂・図書館流通センター共同事業体を平成31年4月1日から令和6年3月末まで指定管理者として指定している。事業期間のほとんどが新型コロナウイルスの影響を受けた期間であり、実績評価は非常に難しいと感じた。また指定管理者制度の根本的な問題として、「雇用の継続性が図られるか」がある。5年ごとの指定管理者選定があり、他事業者に移った場合、雇用されている職員の身分保障が課題と感じる。草加市では、図書館の分館が必要であり、市内バランスを考えると南東部に整備する必要があるが財政的な課題もあり、桶川市同様、民間ビルのテナントとして整備するか、公共施設の建て替えに合わせて整備するかをよく検討する必要がある。整備場所、整備手法は時々の状況に合わせて合わせる必要がある、情報収集を積極的に進め、図書館分館の整備をすすめるべきだと感じた。</p> <p>○田川副委員長 綾瀬川の起点、桶川市へ図書館行政について視察を行った。「OKE GAWA hon プラス+」は桶川駅西口に直結する商業施設「おけがわマイン」の3階にあり、中央図書館、書店、カフェ、リラクゼーションスペース、イベントスペースから成る市民サービス向上を目的とした施設。行政と書店事業を営む民間事業者による運営協議会が主催し、様々な団体と連携してイベントを継続的に行っている。また、市内4か所にある図書館もその民間事業者に業務委託し運営している。市民サービスやにぎわい創出といった観点からも学ぶべき点が多くあり、有意義な視察となった。</p> <p>○藤原委員 実際に見学して、第一印象が明るい！ということでした。窓がない分、照明や棚の高さ・配置など十分に考慮されていると感じました。いかに来場者を増やすかという一点をみんなで考え、可能な限り実行していく。図書館と書店、一見、相反する価値観の施設のコラボ。逆転の発想により成功へと導いた英断に敬服いたします。 そして、民間の力を最大限活用しての成果が大ききように思いました。</p> <p>○河合委員 桶川市立中央図書館を視察でお伺いしたところ、行政の図書館とは思えないような先進的な図書館であった。民間の丸善と桶川市立中央図書館が並列して位置されており、相互に行き来できる仕組みとなっている。新作の本は丸善にて、トラディショナルな本は行政の図書館にて入手することができる。お互いが補完関係にあり、相乗効果関係を生んでいることで、来館者数は激増しているようである。 このような考え方は、図書館に限らず、来館者を増やしたい行政施設全般に応用できると思われるので、草加市においても参考にすべき考え方であろう。</p>

○川崎委員

桶川市立中央図書館は平成26年のリニューアルに伴い、図書館をよりよくするために面積を2.5倍にした。

その際、書店の丸善さんよりコラボの話をもらい、本屋と図書館が一緒という、ある意味相反したアプローチではあるが、よい方向に相乗効果が生まれ利用者の満足を得ている模様。一例として図書館で勉強している最中、参考書が欲しいので買いに行くといったことが起こっているようである。

また、カフェを併設したことで、借りたり、買ったりした本を、すぐその併設しているカフェで読むこともでき、スペースに新たな付加価値が生み出させている。更には図書館・書店の前にはイベントスペースもあり、時折、さまざまなイベントが行われている。それらはまちの賑わいの創出に加え、図書館を利用してもらうきっかけにもなっている。

なお、図書館は指定管理者が管理している。指定管理者による管理のほうが、市民ニーズを踏まえた運営ができている模様。上記のイベントも指定管理者が運営を行なっている。司書資格者は、57%。

草加市と比較した際、利便性において、中央図書館は劣っていないと思います。

図書館をもっと身近に感じてもらうための取組は、市の文化教育を助長していく上で必要なことだと考えます。

視察を終え、本を読むためだけの図書館だけではなく、何か別の付加価値と結びつけた図書館を検証していく必要性を感じました。まずは現在のニーズにあった図書館の在り方を、今一度検証してみることが、草加市でのこれからの図書館運営に必要なことだと考えます。

○平山委員

図書館運営の指定管理者の導入における成功事例として成果を体感しました。他の自治体でも図書館を民間企業が管理する成功事例は多くあるようですが、桶川市においても同様に成功事例として再現性が高く一定の効果が得られるものであると認識しました。おそらく本市でも同様の効果と再現が可能と思われます。しかしながら、インターネットの普及により図書館の求められる役割が変貌してきており、これからの図書館の役割、あり方も議論していく必要があるのではないかと考えさせられました。

○金井委員

草加市は25万都市でありながら、図書館の分館がなく、今まで私も含め様々な議員さんが図書館の分館を要望しておりますが現在に至っております。

今回の行政視察は、図書館の分館の設置に向けて、参考に出来ればと思います、臨んでまいりました。

桶川市は、駅前民間施設の中に、中央図書館と民間の大手書店が隣接しております。

この相反するような図書館と大型書店については、相乗効果があるとの説明を受けました。ということは、図書館以外の店舗などとも相乗効果が見込まれるのではと推察します。

草加市では、図書館の分館を単体で設置することについては現実的ではなく、公共施設の建て替え時期に合わせ、公共施設との複合化が近道と思っておりましたが、桶川市の行政視察を通し担当からお話を伺い現場を視察することで、民間施設で図書館の分館を設置することにより、他のテナントに入っている店舗にとっても、図書館の相乗効果で売り上げにも反映されることが見込まれるところから、民間施設との複合化による図書館分館の設置についても検討を進めてほしいと思うところで

○田中委員

この桶川市の取組というのは、民間活用と公共施設の複合化という2方面の観点で大変興味深い。行政の民間活用は大きな効果がある一方、採算性の問題が常在しており、行政の負担が減る一方で、撤退リスクは大きな課題である。また、我が草加市においても、人口減少社会を念頭に、公共施設管理計画等により、公共施設を集約し、複合化の検討がなされている。公共施設同士の集約だけでなく、公共と民間の複合化というのも検討に値することがよくわかった。

また、今回の視察の目的であった、図書館行政については、民間の方が多くのデータを蓄積しており、市民に選ばれる図書館であるためには、この民間データの活用は市民に大きなメリットがある。

他方、民間側にとっても、行政施設というのは利用頻度も高く、集客面では大きなメリットが見込める。桶川市で現在のところ成功している様に、お互いにウィンウィンの関係を構築することができると考えられるので、市内に中央図書館1館しかない草加市にとっては大きな魅力であるし、この方式で、草加駅東口のアコス北館・南館への併設も可能ではないかと考えられるが、撤退等のリスクも考慮に入れながら、慎重に検討することが必要である。

○吉岡委員

埼玉県桶川市のパトリア桶川店内の図書館は駅前商業施設との複合化により、閉館時間を午後9時にする等、現状成功してる図書館と思われる。しかも、同フロアに書店と図書館を隣接するといった、これまでは考えられなかったレイアウトであり、それが相乗効果となり、その他の企画にも反映されている。

草加市に置き換えると、草加駅前商業施設内に図書館を設置するような事であり、ただ単に複合化するだけではなく、様々な施策との相乗効果を図ることで、駅前の活性化等にも貢献できる施策であるように思える。ただ本施策実行には財源の問題もあり、慎重な検討が必要である。

○小川委員

平成27年から桶川駅前商業施設内に中央図書館をリニューアルオープンさせ、同じフロアに大型書店を隣接させたことで、各々の強みを生かしながら、バランスを考慮した運営をされていました。

平成31年からは指定管理者制度で市内4館を一括して管理されているということで、利用者ニーズに応えられやすいよう各館にテーマを設けて運営されているなど、市民にしっかりと行き届いた図書サービスを提供されており、民間のノウハウを最大限活用されていると感じました。

その他

